

令和3年度 認定こども園あおがき 幼稚園評価

| 重点目標 | | | | | |
|---|--|---|------|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度や能力を育てる。 自ら物事に取り組もうとする意欲や態度を育む。 | | <ul style="list-style-type: none"> 心豊かで、たくましい子を育み、生きる力の基礎を培う。 身近な人や自然、動植物とふれあう直接体験を通し、情操豊かな心を育てる。 | | | |
| ○ 自己評価 | | | | ○ 幼稚園関係者評価 | |
| 領域 | 評価の観点 | 評価項目 | 達成状況 | 園の取り組み状況と改善の方策 | |
| 園運営 | 開かれた認定こども園づくり | 多様な人々とのふれ合いやかかわり | A | コロナ禍での教育活動ではあったが、参観日の分散、学年ごとの行事を実施し、保護者の方が安心して子ども達の様子を見てもらえる機会を作った。そのことはアンケート結果の「園や教育内容を公開する努力をしている」が96%と高く、評価できる。 地域の方との直接的な交流はできなかったが、園周辺の散歩、バスを利用した園外活動を多く取り入れた。また、ALT・ゲストティーチャーの力を借り、様々な体験やふれあいを持つことができた。散歩に出た時に地域の人とかがかわりが出来たことが子ども達にとって良い経験となっている。 | コロナ禍でも、可能な範囲での行事の取り組みをし、感染予防対策もしっかりとされており、保護者の方も安心されていると思う。来年度もいろいろな制限はあると思うが、工夫しながら地域との交流も行い、地域の方が子ども達の笑顔で元気になれるような取り組みに期待する。 |
| | 子育て支援の推進 | 「親と子の育ちの場」につながる相談活動の充実 | A | 保護者が気軽に相談できる体制として、懇談会(年2回)・育児相談(月1回)を設けている。アンケート結果も「いつでも相談できる体制を作っている」が96%と高く、月1回の育児相談が定着してきたと感じる。相談内容は、生活習慣やしつけのことが多い。話を聞いたり、園での関わり方を伝えたりすることで話を聞いてもらえる場があるという安心感につながっている。今後は、子育て学習センターと連携し、講演会を開催するなど「親育ち、子育て」の場となるようにする。 | 保護者が安心して相談することが出来る体制を取られていると感じる。コロナ化で、ますます孤立化している家庭も多いと思うので、園の役割として、保護者交流の場、悩みを相談できる場となるよう期待する。また、親と子が共に成長していけるような情報提供に努めてほしい。 |
| | 危機管理 | 不審者対応と避難確保計画の取り組み | B | 不審者対応訓練を、7月と2月に計画し、警察と連携を図りながら実施する予定だったが、まん延防止措置が発令され2月は実施できなかった。7月の不審者対応訓練では、子どもたちの安全を守る方法を訓練することができた。しかし、園の環境は、どこからでも侵入しやすいと指摘を受けた。また、住民センター備蓄倉庫の見学や非常食を食べる体験をし、災害時の過ごし方について知ることができた。避難確保計画を作成することで、備蓄品の補充もできた。今後は、避難確保計画に基づいた訓練を実施し、有事の際に備えられるようにする。 | 不審者が侵入しやすいという課題については、解決が難しいが、今後も警察と連携しながら訓練を重ね、有事の際に備えてほしい。避難訓練では、繰り返し取り組むことが大切であると思うので、PDCAサイクルをしっかりと活用し、危機意識をもって取り組んでほしい。 |
| 教育課程 | 遊びを通じた幼児期にふさわしい生活の総合的な展開 | 体も心も満足する遊びの体験 | B | 外でのびのびと体を動かして遊んだり、草花や生き物、自然物、自然現象に触れるなどの自然体験をしたりする中で、五感を通じた気づきや発見などを伝え合いながら教師や友だちと一緒に遊びを進めてきた。活動の見直しを持って取り組めるように努めたが、十分に時間を確保できない時もあった。今後は、積極的に自然に触れて遊ぶ満足感・充実感が味わえるような色々な経験・体験を増やしていく。 | 子ども達が楽しく園生活を送っていることがアンケートの結果や子どもたちの様子を見ていてもよくわかる。今後も、十分に体を動かしてのびのびと遊び、面白いと思えるような経験を重ねてほしい。 |
| | 基本的な生活習慣の育成 | 家庭と共に進める食事マナーの定着 | B | 食事の挨拶は身につけているが、年齢が低いほど食事の姿勢が崩れやすく、食具を落としたり、食べこぼしたりすることが多い。教師や調理師がマナーについて知らせたり、箸遊びを取り入れ、正しい箸の持ち方や姿勢について伝えたりしている。今年度は、5歳児の保護者を対象に、給食体験会を開催し、小豆や黒豆を箸でつまむ遊びを体験していただき、正しい箸の持ち方について関心を持ってもらうように努めた。食事のマナーについては、懇談や連絡帳等で連携しながら引き続き進めていく。 | 食事の挨拶が身につけていることは喜ばしい。子どもは、遊びから学びにつながるので今後も箸遊びのような取り組みを続けてほしい。体験会など保護者が実際にやってみることで、興味・関心が持てると思う。今後も、そのような取り組みや、懇談等で、連携しながらマナーが身につくように努めてほしい。 |
| | 幼小連携 | 小学校との連携・交流 | A | 青小1年生との交流や職員研修も計画していたが、まん延防止等により実施することができなかった。しかし冬になり、5・5交流(青垣小学校5年生との交流)を持つことができたことで、園児たちは憧れの気持ちを持ち、就学への期待を膨らませている。出前授業は、実施することができなかったが、園小の職員で様子を伝え合う機会を持ち、共通理解を図るようにした。今後も状況をみながら、直接的なかわりが持てるように働きかけ、取り組みを続けていく。 | 校長先生も頻りに来園され、子どもたちの様子を知ってもらい機会を多く作っていただける。小学校とも連携をとり、就学への期待を高められるようにされている。コロナが収まれば、情報共有・連携の充実を図りながら、進めてほしい。 |
| 課題教育 | 特別支援教育 | インクルーシブ教育を根底においた学級経営 | A | 園内教育支援委員会等で、計画的な指導内容・指導方法の充実を図り、実践につなげようきめ細やかな支援につなげている。また、人的環境・活動・教室環境のユニバーサルデザイン化について、会議や研修の機会を持ち、理解を深めるようにしている。今後も、保護者との合意形成を図りながら、子どもたちが共に生活しやすく、学び合い認め合えるような学級経営に努めていく。 | 委員会や会議などからさらに支援教育について共通理解をし、学びの場を作られている。そのことがより充実した具体的な支援につながっている。子ども達が生活しやすいうちの学びの場を充実させてほしい。 |
| | 道徳性の芽生え及び人権教育 | 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の育成 | B | 子ども同士のやり取りの中で思いの行き違いやトラブルがある際には話し合いをし、その都度相手の思いに気づき、思いやる気持ちが育っていくようにした。また困っている子が自ら傍に行き寄り添う姿も見られ、「ありがとう」「大丈夫?」など温かい言葉が増えている。アンケート結果の中で「我慢する力や最後までやり抜く力などが育っている」の「そう思う」が39%と低いが、園では、我慢する力や最後までやり抜く力は育っていると感じる。今後は、園での様子を積極的に知らせ、子どもの成長している姿が分かるようにしていく。 | 友だち同士のかかわりの中で、様々な経験を繰り返し、我慢する力や最後までやり抜く力が身につけていくよう、認めあったり、励まし合ったりしながら育んでほしい。 家庭では甘えもあり我慢する力・やり抜く力は少し低めだが、園ではできているので、そのような取り組みは今後も続けてほしい。 |
| | 安全教育 | 遊びや生活の中で体験を通じた安全教育の実施 | A | 交通ルールについては、園外活動時等で繰り返し伝えることにより、左右の確認は身につく。活動前には、行動の仕方や約束事を一緒に考えるようにし、みんなが安全に楽しめる行動について確認するようにした。ヒヤリハットの事例が起きると、教師側だけでなく、子どもたちにも危なかったことを伝え、一緒に危機意識を持ち考えられるようにした。それにより、子ども同士で声を掛け合いながら遊ぶ姿が多くみられるようになった。職員会議の中でも、事例について話し合い、共通理解と改善につなげている。 | 園の中では、交通ルールを守って生活できていると思うが、家庭では、様子が違うこともある。引き続き、登園時の安全指導の実施や交通ルールを守る大切さについて家庭に啓発してほしい。子どもたちと安全な生活についての話し合いを進め、教師間でもしっかりと共通理解を図り、未然に事故を防止できるように取り組んでほしい。 |
| | 食育 | 食べ物への関心を広げ「感謝の心」を育む | A | 今年は感染症対策のため「自分でクッキング」とし、器具などの共有をやめ、一人で出来るクッキングを行った。地域の方からは旬の野菜や果物を頂き、それに喜んだ子ども達が自ら手紙を書きバスに乗って感謝を伝えるに行った活動は、食を通して豊かな心と発信力・行動力が育っていると感じる。家庭において朝ごはんを体づくりを意識したり、給食を話題にしたり、感謝の気持ちを持ち残さず食べるなど、「そう思う」がどれも70%以上あり、家庭でも食育の大切さを感じてもらっている。 | 食育活動が制限される中、安全に配慮されたクッキングや給食時は感染症対策がきちんと行われている。しかし、食事の時間はマスクを外しているため、今後も注意するようにしてほしい。 子ども達が発信する感謝の気持ちは、手紙という形にすることで思いが届き、心を育てるいい活動である。今後も地域で子ども達の食をサポートする活動に期待する。 |
| ※領域(3領域) 園運営、教育課程、課題教育 | | | | 自己評価の実施方法についての評価 | |
| 領域 | 観点 | アンケート結果だけでなく、日頃の子どもの実態を把握し、適切な評価がされていると感じる。 園での子どもたちの様子を見る機会が少なく、園だよりやホームページでの評価となったため、もう少し、情報公開の工夫をしてほしい。 | | | |
| 園運営 | 開かれた園づくり、組織運営、教職員の育成、子育て支援の推進、危機管理、安全管理、保護者地域住民との連携、施設設備 等 | | | | |
| 教育課程 | 幼児期にふさわしい生活の展開、幼小連携、特別支援教育、基本的な生活習慣の育成 等 | | | | |
| 課題教育 | 特別支援教育、環境教育、道徳性の芽生えの育成及び人権教育、情報教育、食育、防災教育 等 | | | | |
| ※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善 | | | | 幼稚園関係者評価のまとめ | |
| 幼稚園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について | | | | コロナ禍でいろいろな制限がある中、十分にできることをしてもらっていると感じる。子ども・保護者・先生、誰もがストレスにならないようにしてほしい。 ホームページを利用して積極的に情報公開をされているが、知らない人が多いため、イロドリリンクを上手く活用すれば、より多くの保護者にも見てもらえると思う。地域への発信としては、積極的に園外に出向き多くの人とふれ合いを持つことで、いろいろな体験・学びに繋がっていくよう期待する。 『地域の中にあるこども園』として、保護者だけでなく地域の方を巻き込み、今まで以上に連携してもらいたい。 | |
| 令和4年3月18日 社会福祉法人青垣福祉会 認定こども園あおがき 園長 安田千代 印 | | | | | |